資料４

林業・木材産業成長産業化促進対策交付金

林業振興課

林業・木材産業成長産業化促進対策交付金

◇制度の概要

戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎えるなか、これらの森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を図るに際し、意欲や能力のある林業経営体を育成し、木材生産を通じた持続的な林業経営を確立するため、出荷ロットの大規模化、資源の高度利用を図る施業、路網整備、高性能林業機械の導入、木材加工流通施設の整備等、川上から川下までの取組を総合的に支援する。

※林業の成長産業化とは、『林業及び木材産業を安定的に成長発展させ、山村等における就業機会の創出と所得水準の上昇を実現する産業への転換を図ること』である。
※平成30年度から令和４年度まで国の制度として実施。

◇事業の概要

1．事業内容

（１）持続的林業確立対策

森林整備の効率的かつ円滑な実施、担い手育成及び生産コストの低減を図ることで持続的な林業経営を確立するため、高性能林業機械等の購入補助を行った。

合わせて効率的かつ安定的な林業経営を継続的に行うために必要な高性能林業機械のリース補助を行った。

（２）林業成長産業化地域創出モデル事業

国から認定を受けたモデル地域において、地域木材の安定供給及び森林資源の循環利用や地域の活性化のため、木材加工流通施設の整備を行った。

２．事業実施主体

・木頭森林組合、美馬森林組合、三好東部森林組合、(株)山城もくもく
（公社）徳島森林づくり推進機構、(有)西野商店【モデル事業】

３．事業費及び国庫交付金（平成30年度実施分、目標年度：令和５年度）

（１）持続的林業確立対策　（単位：千円）

メニュー	施設区分	補助率	事業費	交付金
高性能林業機械等の整備	高性能林業機械 6台	1/3以内 4/10以内	185,436	55,766
林業経営体育成対策 （林業機械リース）	高性能林業機械 5台分	1/3以内 4/10以内	80,800	27,449
計	11台		266,236	83,215

（２）林業成長産業化地域創出モデル事業　（単位：千円）

メニュー	施設区分	補助率	事業費	交付金
木材加工流通施設等の整備	木材製材施設装置 2台	1/3以内 4/10以内	11,856	5,488

事業費合計＝　**278,092千円**　　交付金合計＝　**88,703千円**

◇事業の評価（交付金要領抜粋）

・個別指標を設定する施設について事後評価を行う。
・平成30年度に事業完了したもので、林野庁長官等に令和６年度において、目標年度（令和５年度）の達成状況報告を行うもの。
・都道府県知事は、達成状況報告の際に、事業効果が発現されているか否かといった観点から総合的評価を行う。
・目標年度において、個別指標の目標値の達成率が70％未満となった場合は「達成状況が低調な施設」として、その原因を調査・分析するとともに、必要な措置（改善措置）を講じ、その結果を林野庁長官等に報告するものとする。

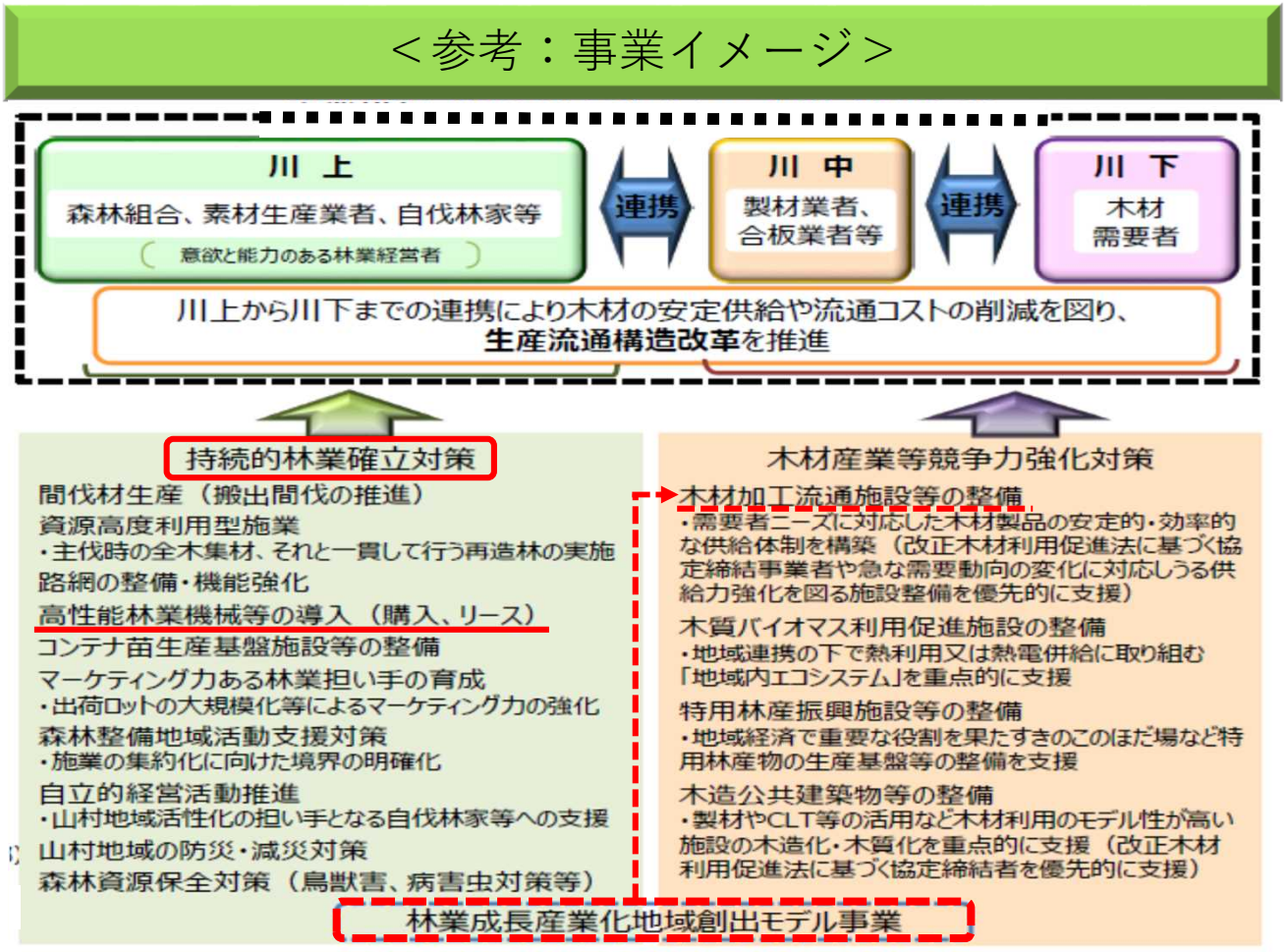
注）１　目標年度は、事業完了（設置年度）の翌年度（調査初年度）から起算して５年目とする。

注）２　調査年度及び報告年度

※調査は、調査初年度から目標年度までのすべての年度において行うものとし、各調査年度の翌年度の８月末（速報）及び10月末（本報）までに林野庁長官等に報告するものとする。

注）３　改善措置

※都道府県知事は、改善措置を実施した場合は、改善措置を実施した年度の翌年度から起算して５年間、改善措置に対する達成状況を林野庁長官等へ報告するものとする。



◇事業の達成状況

（１）持続的林業確立対策

上段：計画
中段：実績
下段：達成率

事業実施主体	メニュー	施設等区　分	設置年度	個別指標（目標値）	達成状況 1年目（令和元年度）	2年目（令和２年度）	3年目（令和３年度）	4年目（令和４年度）	**目標年度**（令和５年度）	費用対効果（B/C）	効果判定	備　考
木頭森林組合	高性能林業機械等の整備	プロセッサ	平成30年度	素材生産量(m3) 16,000 → 21,000	17,000 17,816 105%	18,000 16,469 91%	19,000 18,190 96%	20,000 20,104 101%	21,000 **17,166** **82%**	**1.06**	高性能林業機械導入の結果、素材生産量・生産性とも増加傾向にあり、令和４年度には素材生産量が目標値を上回ったが、木材価格が下落した影響もあり、夏期の出材量を調整したため、令和５年度の生産量・生産性は落ち込んだ。 今後については、価格を考慮しつつも、年間を通して安定した素材生産を行うよう改善したことにより、再び生産量・生産性とも伸びる見込みである。	
				素材生産性(m3/人・日) 5 → 7	5.67 5.60 99%	6.00 5.44 91%	6.38 5.78 91%	6.67 6.03 90%	7.00 **5.82** **83%**			
美馬森林組合	高性能林業機械等の整備	ハーベスタ タワーヤーダ	平成30年度	素材生産量(m3) 18,268 → 24,783	19,571 20,904 107%	20,874 15,862 76%	22,177 17,216 78%	23,480 17,620 75%	24,783 **18,877** **76%**	**2.89**	新型コロナウイルスの影響により、令和２年度に素材生産量が大きく落ち込んだ（素材生産性については、作業現場の立地が良く目標値をクリアできた）。 令和３年度以降は、導入した林業機械を活用し生産量を伸ばしているが、作業員の離職等により、素材生産班が通常より１班少ない３班体制かつ、作業現場の条件の悪さ（林道から遠く、作業工程が増えた）等もあり、目標の生産量・生産性には届かない状況が続いていた。 令和４年度下半期から４班体制に戻ったため、再び生産量を伸ばし始めており、今後については、作業現場の選定や作業員の技術向上等を図ることで生産性の改善に取り組み、生産量をさらに伸ばす予定である。	
				素材生産性(m3/人・日) 6.76 → 7.34	6.69 7.00 105%	7.13 7.40 104%	7.04 6.48 92%	7.45 6.57 88%	7.34 **6.36** **87%**			
三好東部森林組合	高性能林業機械等の整備	ハーベスタ フォワーダ	平成30年度	素材生産量(m3) 9,114 → 15,500	13,500 11,847 88%	14,000 13,832 99%	14,500 10,825 75%	15,000 13,042 87%	15,500 **13,136** **85%**	**6.80**	令和３年度に作業員の離職等により、素材生産班が４班から３班と少なくなったことで、生産量が大きく減少した。令和５年度は、積雪の影響や別の林業機械の故障等により、作業が想定よりも進まず、計画した生産量には届かなかったが、導入した機械を活用し生産性を大きく向上させたことで、４班体制時と同程度まで生産量を回復させた。今後は、作業員の確保等に努め、更なる増産を目指す。	
				素材生産性(m3/人・日) 3.45 → 5.87	5.11 4.89 96%	5.30 8.03 152%	5.49 7.39 135%	5.68 8.17 144%	5.87 **9.13** **156%**			
(株)山城もくもく	高性能林業機械等の整備	フォワーダ	平成30年度	素材生産量(m3) 7,458 → 12,000	11,000 8,000 73%	12,000 13,227 110%	12,000 15,907 133%	12,000 14,937 124%	12,000 **15,288** **127%**	**11.67**	高性能林業機械導入の結果、森林整備の効率的かつ円滑な実施、担い手の育成及び生産コストの低減が図られ、素材生産量・生産性ともに順調に推移しており、当初想定していた事業効果の発現は果たされている。	
				素材生産性(m3/人・日) 4.10 → 5.60	5.60 5.19 93%	5.60 6.89 123%	5.60 9.97 178%	5.60 7.00 125%	5.60 **5.59** **100%**			
（公社）徳島森林づくり推進機構	林業経営体育成対策	プロセッサ ２台	平成30年度	素材生産量(m3) 45,400 → 57,000	47,700 45,227 95%	50,000 53,195 106%	52,500 48,746 93%	55,000 50,758 92%	57,000 **51,577** **90%**		新型コロナウイルスの影響により、令和２年度から木材の需要と供給のバランスが崩れ始め、製材･合板工場の入荷制限等による原木の滞留が発生したことに加え、現場における慢性的な担い手不足等の要因もあり、令和３年度から計画した生産量に届いていない状況である。 しかし、生産量は増加傾向で推移しており、今後は、２つの大型製材工場進出による需要が見込まれることから、林業アカデミー等からの新規人材確保を図り、作業班の再編整備を進めることで、更なる素材生産量の増加に努める。	リース
三好東部森林組合	林業経営体育成対策	プロセッサ スイングヤーダ	平成30年度	素材生産量(m3) 9,114 → 15,500	13,500 11,847 88%	14,000 13,832 99%	14,500 10,825 75%	15,000 13,042 87%	15,500 13,136 85%		令和３年度に作業員の離職等により、素材生産班が４班から３班と少なくなったことで、生産量が大きく減少した。令和５年度は、積雪の影響や別の林業機械の故障等により、作業が想定よりも進まず、計画した生産量には届かなかったが、導入した機械を活用し生産性を大きく向上させたことで、４班体制時と同程度まで生産量を回復させた。今後は、作業員の確保等に努め、更なる増産を目指す。	リース
(株)山城もくもく	林業経営体育成対策	スイングヤーダ	平成30年度	素材生産量(m3) 7,458 → 12,000	11,000 8,000 73%	12,000 13,227 110%	12,000 15,907 133%	12,000 14,937 124%	12,000 15,288 127%		高性能林業機械導入の結果、森林整備の効率的かつ円滑な実施、担い手の育成及び生産コストの低減が図られ、素材生産量・生産性ともに順調に推移しており、当初想定していた事業効果の発現は果たされている。	リース

上段：計画
中段：実績
下段：達成率

（２）林業成長産業化地域創出モデル事業

事業実施主体	メニュー	施設等区　分	設置年度	個別指標（目標値）	達成状況 1年目（令和元年度）	2年目（令和２年度）	3年目（令和３年度）	4年目（令和４年度）	**目標年度**（令和５年度）	費用対効果（B/C）	効果判定	備　　考
(有)西野商店	木材加工流通施設等の整備	耳擦り機 ジャンピングソー	平成30年度	地域材利用(加工)量(m3) 2,369　→　3,080	2,563 83%	2,036 66%	1,801 58%	2,136 69%	3,080 **2,720** **88%**	**9.45**	平成３０年度に施設導入を実施し、令和元年度から補助事業の効果発現を予定していたが、令和２年度から令和４年度までは新型コロナウイルスやウクライナ紛争の影響で原木需給が逼迫し、調達が困難となったことや、更に令和５年度においては住宅着工戸数の減少により、全国的に製品の販売不振で、安定的な製造が困難となったことから、結果的に目標年度では低位な達成率となった。 一方で、地域材利用量（原木消費量）は目標数値に達していないものの、製造経費の削減等により、現状値よりも減収、増益となったことにより、事後評価（費用対効果）は大幅に増加した。	※施設の効率性 当該施設による地域材加工量（原木換算）の増加量／総事業費（千円）
				増加率(%) 0　→　30%	8% 27%	-14% -47%	-24% -80%	-10% -33%	30% **15%** **49%**			
				施設の効率性(m3/千円) 0　→　0.06	0.02 33%	-0.03 -50%	-0.05 -83%	-0.02 -33%	0.06 **0.03** **50%**			

◇総合評価

・　高性能林業機械の導入により、素材生産における作業システムの改良・改善や担い手の育成が進み、目標年度における素材生産量は全体達成率89%（伸び率21%）、素材生産性は平均達成率104%（平均伸び率39%）となった。事業実施主体毎の達成率も林野庁が掲げる目標年度での達成率７０%以上を上回る結果となっており、当初想定した事業効果の発現は概ね成されていると判断される。

　今後も林業の収益性の向上を図りながら、需給に応じた素材の安定供給を推進する、「効率的かつ安定的な林業経営」を目指すためにも、高性能林業機械の導入と合わせて森林作業道等の路網整備も図りつつ、生産性と収益性向上の支援に引き続き取り組む。

・　モデル事業については、住宅着工戸数の伸び悩みや製材工場数の減少（98社→71社）などの影響により、製材による原木消費が減少した結果、目標年度における達成率が低調となった。個別事業については本年度中に改善措置を実施し、当初想定した事業効果の発現に向けて確実な指導を行っていく。

　一方で、今後より一層県内の森林資源が成熟し、大径材の出材割合が多くなると見込まれるが、県内での大径材の引き合いが少ないことから、大径材需要の拡大を図る必要があるため、大径材対応の大規模・高効率加工施設の整備を進め、住宅分野への販売強化も図っていく。